

地元鹿児島でも知られていなかった『篤姫』が大河ドラマに！

『篤姫』の郷、鹿児島市を取材して

三田の歴史を大河ドラマへの思いで始めた我々の活動も、いつしか灯火も消えかけていたが、『白洲次郎』のNHKドラマ実現で一気にお息を吹き返してきた。『白洲次郎』の著者・北康利が、我々が大河ドラマの主人公と目する『蘭学者・川本幸民』の小説を既に書いている！あの、鹿児島でさえ知られていなかった『篤姫』が大河ドラマになったことを思えば可能性は十分だ。どうすれば大河ドラマを引き寄せられるのか、実現すればどの程度の経済効果が期待できるのかを、現地鹿児島に行つて探つてきた。

『篤姫』の経済効果

①放映前の二〇〇七年、日銀鹿児島支店の予測では観光客増加数は二二〇万人(宿泊客は六五万人)、経済効果は二九六億円、放映の翌年は対前年比観光客数は一二八万人減、経済効果は一七二億円減と見込んでいます。一九九〇年放映の『翔ぶが如く』は宿泊客数が一五三万人増、経済効果は六二一億円であり、半分以下の評価となつています。

②放映中の二〇〇八年一〇月、鹿児島地域経済研究所の試算では直接効果は一五

一億円、間接効果一一億円、合計二六二億円と予測。

③同じく、放映中の二〇〇八年九月、日銀鹿児島支店の予測では『篤姫』効果が徐々に強まっているとしながらも、観光客数の伸びは当初の予想を下回り、一月から七月の実績から、その伸び率が続いたとの条件で、経済効果を二七九億円と下方修正している。

④平成二〇年度鹿児島市観光統計の入れ込み観光客数によれば、二〇〇八年度の観光客総計は九〇二万人、対前年比5%

(四三万人)アップで、昭和四〇年に三〇〇万人を突破して以来最高を記録した。特に県外からの観光客は7.7%アップ、県内客は2.6%アップであつた。篤姫は鹿児島市民にも知名度は低く、放映当初は視聴率も上がらず、NHKでも問題視されてきたが、中盤以降尻上がりに上昇し、予想を上回る経済効果を上げることができた。

誘致活動のポイント

鹿児島市は兼ねてより大河ドラマ誘致に向けてNHKに対しアプローチしている。

鹿児島市は別のテーマでアプローチしていたが、NHKから突然『篤姫』の計画がもたらされ、篤姫の知名度が県内でも低く、驚き、戸惑つた。当然ながら、『篤姫』に関しては特に全く活動を行つていない。大河ドラマ誘致にはNHKのプロデュー

篤姫館事業と広告・広報活動について

①篤姫を県内及び全国へ発信する拠点として二〇〇八年一月〜二〇〇九年三月まで篤姫館を設置した。同館は県、市、商工会議所などで実行委員会を設け、ドルフィンボートの一角を借り、セットを再現するなどの展示を行つた。当初は二〇〇九年一月までの予定で

あつたが、人気上昇で三月まで延長した。②有料広告は出さない方針で進めたが、多くのマスコミに取り上げられ、観光客誘致に効果を発揮した。当初、二〇万人の来館予想が、六七万人と予想を大幅に上回つた。

③建築費及び展示品に二・四億を支出、二・八億の売り上げで黒字を達成した。

フィルムコミッションの効果は？

九州・山口地区のフィルムコミッションに加入し、活動しているが、大河ドラマのロケハンでの経済効果は殆ど期待できない。(九九%はスタジオで撮影)しかし、映画では『海ざる』『チエスト』『網の金魚』などのシリーズで、潤っているようだ。

維新ふるさと館

現在は維新ふるさと館で篤姫関係の展示

を行つているが、維持費が八千万円、収入が三千万円で赤字とのこと。

鹿児島で川本幸民は？

川本幸民が鹿児島においでどのように認識されているか、尚古集館と維新ふるさと館を見学したが、尚古集館には川本幸民の肖像画と、簡単な紹介文が展示されており、また、同館で販売している図録集にも三田藩出身の蘭学者で島津斉彬が九鬼精隆に頼みこんで薩摩藩士に取り立てたとの記述がある。



(文・野上和雄)

二十、四十代の男性大募集中

ふるさと発信、十八名が演技を勉強中

三田は歴史があつて、自然が豊かで流行に敏感な都会と、経験を大切にする農村が混在する町です。人それぞれに思い入れのある町、我が故郷ですが、私の場合は「ふるさと自慢がしたい」その一語です。子供の頃、「日本で最初にビールを造つた人は三田生まれの川本幸民さんだ」と教えられて知っていましたが、子供はビールに関心が有りませんから、川本幸民さんであつても、名前とビールを知っているだけで、ふるさと自慢の対象ではありませんでした。ところが、近年になって、ニュータウンの建設が進み、ふるさとの見直し、ふるさとの町おこしイベントが盛んになり、川本幸

民さんに改めてスポットライトが当たるようになりました。演劇に携わるようになって仕事仲間、川本幸民自慢をしました。しかし、採算を第一にする商業演劇の世界では川本幸民さんを取り上げてもらえませんでした。ところが、NHKの大河ドラマで町おこしをするとの遠大な企画を考え付かれたのが『ドラマ九鬼奔流で町おこしをする会』の皆さんです。初めてお名前をお聞きした時は驚きだけでなく「夢の夢」と理解しました。でも、夢は大きいほど面白いとも受け止めました。会の皆さんは地道な活動を継続され、学習するだけでなく三田の歴史を全国へ発信しようとして活動されています。先日、N

HKで放映された『白洲次郎』のドラマの企画も、会の活動とあながち無縁とは言えません。白洲次郎さんのご先祖は九鬼家とは深い縁のある人です。お墓が三田にあることが広く知られたことで、三田を訪ねてくる人(観光客)が随分と増えました。川本幸民さんも九鬼家とは縁深い人です。その川本幸民さんは来年が生誕二百年の年です。平成二十二年の三田市は、川本幸民を題材にしたイベントが多彩に繰り広げられると思えます。照準を生誕二百年に意図して合わせたわけではありませんが、『ふるさとの偉人・川本幸民伝』を来秋舞台化することを目指し、演技の勉強を始めた私達の『三

田演技塾』ですが、多彩に繰り広げられるであろうイベントの一端を担いたいと考えています。そこで、『三田演技塾』の近況報告とお願いです。現在十八名の塾生が舞台演技の基礎を学習中です。全員が初めての体験をしているようです。普段はテレビのドラマでしか見ることでない演技。いざ、自分が演じてみると、見ると演じるでは大違い。「多少の誇張はあつても普段のお喋りを再現すれば、それが台詞です、それが演技です。難しく考えないで」と指導されても、何となくぎこちない。それでも仕方ありません。初めての体験ですから。でも、初めては最初の内だけ、回を重ねて上達中です。来秋の公演時には演技の花がいくつも咲くことになるはず

です。川本幸民さんの少年期から晩年までを描く舞台です。その為、出演者に少年からお年寄りまで幅広い年齢の出演者を求めています。演劇ですから、七十歳代の人から二十歳代の青年を演じても不思議ではありませんが、それは名前(有名)で見せることのできる俳優さんの話で、一般的には見る人に不自然さを感じさせることは否めません。しかし、演技の初心者であつても、かつら、衣装をつけてメイクをすれば三十歳くらいは若く演じ、観る人に不自然を感じさせない演技ができま



す。若さを演じてみませんか。ただ今、ふるさとの偉人・川本幸民伝を舞台化する『三田演技塾』では、二十、四十代の男性大募集中です。もちろん、多彩な役が登場しますので年齢不問にて塾生を募っています。市民が創る、市民が出演する、ふるさと自慢を全国発信。そんな舞台にあなたの参加をお待ち申し上げます。

(文・演出家・

中畑八郎)

誇りに思う三田自慢を発信「三田演技塾」

■塾頭：中畑 八郎

■住所：〒669-1529 三田市中央町2丁目20番地

■電話：079-563-1808